

平成 30 年度 第 1 回 モビリティ・イノベーション連絡会議 議事概要

1 日時：平成 30 年 10 月 29 日（月） 12:30～14:30

2 場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター カンファレンスルーム 9C

3 出席者

構成員 金沢大学 菅沼准教授、群馬大学 曾根研究員、慶應義塾大学 太田研究員、慶應義塾大学 福井研究員、東北大学 鈴木教授、東北大学 長谷川教授、名古屋大学 森川教授、日本大学 影山教授、明治大学 中山教授、法政大学 糸久准教授、法政大学大学院 今井教授、東京大学大学院 垣内教授、名古屋大学大学院 倉地特任准教授、東京農工大学 ポンサトーン准教授、大阪大学 山崎特任准教授、国立研究開発法人産業技術総合研究所 北崎研究センター長、一般財団法人日本自動車研究所 鷹取安全研究部副部長、独立行政法人自動車技術総合機構 交通安全環境研究所 河合自動車研究部長

東京大学生産技術研究所次世代モビリティ研究センター／東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田教授、大口教授、坂井准教授、平沢助教、和田助教、貝塚助教

オブザーバー 内閣府 古賀氏、杉江氏、新エネルギー・産業技術総合開発機構 林氏、渡辺氏

事務局 一般財団法人計量計画研究所（毛利氏、牧村氏、馬場氏、関本氏）、社会システム株式会社（坂下支援 氏、金澤氏）

4 議事概要

（1）須田機構長 挨拶

（2）開催趣旨

- ・構成員自己紹介
- ・資料 1 について説明。

（3）日独連携について

- ・資料 2-1, 2-2-1～3 について説明。

（主な議事）

- ・ドイツ側のメンバー選定は BMBF（ドイツ教育研究省）が声掛けしたと思う。
- ・今までは自動走行システム＝実用化ととらえられていたが、自動技術そのものではなく、その周辺の科学技術等についての研究開発要素がたくさんあるため、SIP の第 2 期メンバーに文部科学省が加わった。今後、国際連携を持続的に活用していくことを考えたときに、学術的な観点の協力や支援を行う環境づくりの意味合いがあると聞いている。
- ・協力には、2 つの国の政府がそれぞれの研究予算を共同で支出する方法もあるが、それぞれ個別に活動するがお互いに協力していることについて文書的に覚書等を交わすという方法もある。
- ・日独の連携内容を具体化することが本会議のミッションの 1 つだが、他の国・地域との連携の可能性についても本会議を活用して模索していきたい。
- ・学学連携を考えた時、日本の学の窓口がないのが現状である。大学間の人と人とのネットワークを集約し、産業界から要望が出た時にそれを受け止め、海外に対し日本の先生方の意見を束ねられる場として、本会議が機能していけばよいと思う。
- ・まずは、各大学の中で研究センターのような活動されているグループ間で、お互いの情報を流通させる仕組みを作ろうという話がある。そういった組織の在りようについても、本会議で議論していきたい。

- ・4 つのテーマ以外のテーマの追加の可能性、すでに動いているテーマにおけるサブテーマという形で取り組む余地、については、意見を出していただき、それを元に内閣府、ドイツを含めて調整したい。また、こういうこともやるべきという意見があれば、あわせて寄せてほしい。同様に、ドイツ側からも意見があれば、本会議で議論することも想定している。
- ・本会議での議論は、SIP 自動運転の中に政策的に反映させることについては約束できないが、議論を報告するチャンスがあるので、働きかけていく可能性はある。

(4) 日欧連携について

- ・資料 3 について説明。

(5) 今後のスケジュール

- ・資料 4 について説明。

(主な議事)

- ・福島県のイノベーション・構想の中に、南相馬などのロボットテストフィールドには自動運転の実証も可能な試験走行路等、研究開発を集積する場所が整備されている。東北大学では、社会実装に向けた取り組みを実施する場所として、皆で活用してはどうかという提案を福島県庁に話をしているところ。その活用について、政策提案を進めるにあたり、本会議にお集まりの先生方や関係者方にも協力いただきたいと思っている。詳細は次回の連絡会議で提案する。

以 上